

学術国際交流協定大学等への短期留学レポート

学年 6 学年次

氏名 秋田 洋

1. 留学先 (☑を入れる)

- 南イリノイ大学医学部・PBL コース
 南イリノイ大学医学部・Elective コース
 コンケン大学医学部 ルール大学医学部
 ウツチ医科大学 バーモント大学医学部
 ポズナン医科大学 タマサート大学チュラポーン国際医学部
 HMEP プログラム・HCCPP コース
 HMEP プログラム・HMEPCC コース

2. 研修先 (複数の科などで行った場合は、全て記入すること)

麻醉 科/講座

3. 留学期間 (出発・帰国日も含めた期間を記入すること)

2024 年 3 月 2 日 ~ 2024 年 3 月 31 日

4. 留学費用 (概算でもよいので項目別に記入すること)

・航空券代	129,930 円
・宿泊費	56,000 円
・光熱水費	7,500 円
・予防接種代	100,000 円
・海外旅行保険代	27,000 円
・生活費(食事代、交通費等)	80,000 円

5. レポート内容

今回の留学に関し記入欄に自由に記述すること。

注意1：必ず**留学して良かった点・改善点、留学への心構え・必要な英語力**についての記述を含む内容とすること。

注意2：文字の大きさ・文字数については、目安として、10.5又は11ポイントにより、800字以上とすること。なお、用紙が不足する場合は複写して使用すること。

記入欄

私はコンケン大学麻酔科の Elective コースで 4 週間実習させていただきました。まず私からこれを読む学生さんに伝えたいのは「迷っているなら申し込むべき」という事です。私自身、留学前には不安な気持ちがかなり強かったのですが、実際に行ってみると本当に楽しい生活を送ることができました。

・留学して良かった点

コンケン大学への留学は本当に楽しく必ず行って良かったと感じる事ができます。タイの人々は我々留学生を温かく迎えてくださいました。学生の人たちは夜ご飯に誘ってくれたり、一緒に飲みにいってくれたりしてくれ、麻酔科の先生が実習しているタイの学生と共に夜ご飯に連れて行ってくださる事もありました。実習では、タイ語での会話を英語に翻訳して伝えてくれ、今何を質問していたのか、先生が何を話していたのかというような事まで細かく教えてくれました。実習最終日には複数回ご飯に行ったタイの学生から手書きの手紙をいただきとても感動しました。私が麻酔科の実習で手術室にいる際、日本の事が好きな看護師の方とお会いして話した翌日に、家で作った手作りのご飯を病院でご馳走してくださった事もあり、このように、人の優しさに触れられた事がこの留学で最も印象深かったです。

タイの学生の学力についてはとてもレベルが高いなと思いました。僕は麻酔科を選択したため、手術室に行き、先生から様々な説明を受けましたが、先生からある薬剤についての MAC 値を質問された際に解答を即答していたり、腕神経叢ブロック時に感覚機能と運動機能はどの順で消え、どの順で元に戻るのかという質問にも答えたりと私の知識をはるかに上回る知識量を持っていると感じました。

麻酔科の実習のスケジュールについてですが、朝は 8 時半か 9 時から開始、お昼休憩をはさみ午後は 14 時～16 時の間に終了と日本での実習と大きな違いはありませんでした。しかし日本での麻酔科の実習が手術室での麻酔導入と維持の見学であるのに対して、コンケン大学麻酔科では PACU、ICU、Pain Unit、内視鏡検査時の麻酔、CT や MRI 時の麻酔と、日本では経験できない事を多く見学し、教えていただくことができました。オペ室も大変雰囲気が良く、良い意味でゆとりをもって働いている方が多いなと感じました。また、学生と先生の距離がとても近く、友達と談笑するような雰囲気で話していたのは日本と異なる文化だと感じました。

土日は実習がないので、友達とともにバンコク、チェンマイ、ラオスに観光しに行きました。とても充実しており楽しかったです。

・改善点

2016 年のコンケン大学麻酔科に留学した方の体験記では、脊髄麻酔の手伝いや気管挿管、ルート確保などを行えると記載がありましたが、実際には 4 週間を通じて全く手技を行うことができませんでした。勿論先生方はとても丁寧に手術や麻酔について教えてくださるのでその点は良かったのですが、自分が想像していた実習とは少し異なったことは事実です。また、麻酔科にはコンケン大学の学生が 1 人もおらず、これは最も残念な点だったと思います。幸いにもバンコクなど他の地域から実習生が複数人来ており、その人たちと話すことができたので良かったですが、コンケン大学の学生ともっと交流を深めたかったという気持ちが強いです。

・生活に関して

コンケンでの生活は非常に快適です。僕らが宿泊したのは Cotton Tree Homestay というホテルでしたが 1 カ月 6 万円ほどで宿泊可能でとても綺麗です。近くにはコインランドリーがあり、そこで週 2 回ほど洗濯をしていました。ホテルの近くにマーケットやお店があるため食べるものに困ることはありませんでした。生活用品についてもすぐ近くのコンビニで大体の物は揃えることができます。大学のカフェテリア（食堂）は沢山の種類のご飯があり、どれも 200 円前後で食べることができたのでとても良かったです。野犬はとても多く、10 分歩くと 10 匹見つかるほどでしたが、まず噛まれることはないのでそこまで心配はいらないと思います。治安もとても良く、22 時頃に外を歩いても身の危険を感じた事はありませんでした。また、Grab はとても便利なので留学前にインストールしておくと良いと思います。

・英語に関して

学生や先生方は基本的に英語を使って会話する事に苦労しておらず、この点については日本との違いを大きく感じました。初めの 1 週間はタイ訛りが強い英語を聞き取るのにとても苦労していましたが、2 週目以降は聞き覚えのある言葉が増えてきた事と英語を聞き取ることに慣れたことにより明らかにリスニング力が向上したことを実感できました。日常会話については想像していたよりは苦労しませんでしたが、医療英語についてはかなり改善が必要だと感じました。医療英単語について、実習する科の単語だけでも予習しておくことで理解のしやすさがかなり変わると思うので出来る範囲で予習しておくと良いと思います。スピーチングについては、考えていることを上手く英語で話すことができず、もどかしさを感じる場面が多くあり、留学を経て英語力を向上させたいと思う気持ちが一層強まりました。

・最後に

日本語が使えない状況に 1 か月間飛び込んでみることで、言葉が通じるありがたさや日本語で医学の勉強ができる事がとても恵まれている事を実感できました。また、英語を話すことに対する抵抗が格段に少なくなり、自ら積極的に英語を話す度胸がついた事は留学したからこそ得られる経験だと思います。僕の留学を快く承諾してくれた両親や留学関連の手続きを行ってくださった庶務課の加藤さんをはじめ、関わった全ての方に感謝しています。本当にありがとうございました。

学術国際交流協定大学等への短期留学レポート

学年 6 学年次

氏名 飯室陽南子

1. 留学先 (☑を入れる)

- 南イリノイ大学医学部・PBL コース
 南イリノイ大学医学部・Elective コース
 コンケン大学医学部 ルール大学医学部
 ウツチ医科大学 バーモント大学医学部
 ポズナン医科大学 タマサート大学チュラポーン国際医学部
 HMEP プログラム・HCCPP コース
 HMEP プログラム・HMEPCC コース

2. 研修先 (複数の科などで行った場合は、全て記入すること)

形成外科

科/講座

3. 留学期間 (出発・帰国日も含めた期間を記入すること)

2024 年 3 月 2 日 ~ 2024 年 3 月 31 日

4. 留学費用 (概算でもよいので項目別に記入すること)

・航空券代	129,930 円
・宿泊費	30,000 円
・光熱水費	3,000 円
・予防接種代	100,000 円
・海外旅行保険代	10,000 円
・生活費(食事代、交通費等)	80,000 円

5. レポート内容

今回の留学に関し記入欄に自由に記述すること。

注意 1：必ず**留学して良かった点・改善点、留学への心構え・必要な英語力**についての記述を含む内容とすること。

注意 2：文字の大きさ・文字数については、目安として、10.5又は11ポイントにより、800字以上とすること。なお、用紙が不足する場合は複写して使用すること。

記入欄

タイの母国語はタイ語であるが、学生や先生方の英語力が高く、日本で学ぶだけでは不足する能力があると知ることができた。コミュニケーションはつたない英語で可能だったが、医療英語が難しかった。タイの医学を学んでいる方達は英語力が高い印象を受けた。タイの先生方、学生も日常的に医療英語に触れているようで、私たちにも英語で患者さんの説明、術式の説明をしてくれるが、なかなか馴染みのない単語で聞き取りに苦労したため、自分の実習する科の医療単語は見ておくと良いかもしれない。

タイの方は皆さん非常に温かく、日本人に対しても困っていると積極的に手を貸して下さることが多かった。（実習でも、旅行でも）にこやかな微笑みに癒された。治安は日本には劣るのかもしれないが、生活面では困ることはなかった。ただ、貴重品は肌身離さず持つことは徹底した。

形成外科に関しては、美容大国と称されているように、整容面への意識が高いため、それに伴って形成外科は日本よりも力を入れている印象を受けた。行っている手術は非常に幅広く、日本でも見られる熱傷や顔面神経再建の他に小児の尿路形成やメラノーマなども行っていた。口唇口蓋裂や小耳症は頻度が高いようで、日本では貴重な手術を見ることができた。スタッフが多く、術野にはに入る機会は一回あるかないかだったが、術野外でも十分に手術の様子を見ることができた。

タイは非常に魅力的な観光スポットが多く、日本とは違った環境であるため、観光もとても楽しかった。週末は3回旅行に使った。プーケット、チェンマイ、バンコクに行くことができた。1ヶ月もあると実習先以外にも多くの都市を満喫できる。タイは地方によってかなり雰囲気が違っており、週末を旅行に充てることにしてよかったです。どこの都市も寺院が圧巻だった。

食事は1日3食、十分にタイ料理が楽しめる。タイ料理は基本安く、学食は30バーツほどでナイトマーケットでは60バーツほどで食べられた。スパイシーな人が好きな人はもちろん美味しく食べられるし、スパイシーが嫌いな人でも、ノースパイ

シーと言えば辛くないものが食べられる。これと言って注意した食べ物もないが、お腹を壊すことはなく、食を楽しめた。特にマンゴーがふんだんに使われるスムージーは砂糖なしでもとても甘く、ジューシーなのでおすすめ。基本大学でお昼ご飯を食べて、朝ご飯は学食やコンビニ、夕ご飯はナイトマーケットやショッピングモール内のフードコートなどで食べた。

コンケン大学への留学は実習をするにも観光するにも恵まれた環境で、1ヶ月では足りないくらいだった。もっと英語力があれば学生や先生とコミュニケーションが取れたと反省点はあるが、一方で言語が完全でなくても意思疎通ができる喜びを感じることもできた。

学術国際交流協定大学等への短期留学レポート

学年 6 学年次

氏名 唐澤堯至

1. 留学先 (☑を入れる)

- 南イリノイ大学医学部・PBL コース
 南イリノイ大学医学部・Elective コース
 コンケン大学医学部 ルール大学医学部
 ウツチ医科大学 バーモント大学医学部
 ポズナン医科大学 タマサート大学チュラポーン国際医学部
 HMEP プログラム・HCCPP コース
 HMEP プログラム・HMEPCC コース

2. 研修先 (複数の科などで行った場合は、全て記入すること)

地域医療

科/講座

3. 留学期間 (出発・帰国日も含めた期間を記入すること)

2024 年 3 月 2 日 ~ 2024 年 3 月 31 日

4. 留学費用 (概算でもよいので項目別に記入すること)

・航空券代	129,930 円
・宿泊費	60,000 円
・光熱水費	5,000 円
・予防接種代	110,000 円
・海外旅行保険代	13,000 円
・生活費(食事代、交通費等)	40,000 円

5. レポート内容

今回の留学に関し記入欄に自由に記述すること。

注意1：必ず**留学して良かった点・改善点、留学への心構え・必要な英語力**についての記述を含む内容とすること。

注意2：文字の大きさ・文字数については、目安として、10.5又は11ポイントにより、

800字以上とすること。なお、用紙が不足する場合は複写して使用すること。

記入欄

今回1ヶ月間コンケン大学に留学できたことはとても貴重な経験になった。1ヶ月という長い期間海外に滞在できることで現地の人と触れ合える機会も多く、文化や食事など様々なことに触れることができ、旅行で行くより深く楽しむことができた。私が回った診療科はcommunity medicineで、日本では地域医療、家庭医療、産業医に分類される科で実習を行った。せっかくならタイ独自の医療に触れたいと思いこの診療科を選んだ。community medicineでは、大学近くにある地域の人のための診療所の外来見学や訪問診療、都市部から離れた複数の中規模な病院の見学、病院と連携した湿布の工場の見学、近くの工場に行き健康被害を受けていないかなどの産業医としての役割など数多くの場所と医療に触れることができた。外来見学で感じたことは患者のほとんどが糖尿病の持病を持っており検査値としてもかなり悪い患者が多くいた印象を持った。日本でも地域のクリニックには生活習慣病の持病の方は多く通っていると思うが、タイでは特に糖尿病の多さが気になった。タイの食事を考えると、飲み物はほとんどが甘く、デザートとしても甘いフルーツがほとんどであり、気候としても暑いのであまり運動習慣がない方が多いことが生活習慣病の増加の原因になっている。外来はもちろんタイ語なので理解はできないが、診察している途中で先生が英語で解説してくれるのでとてもありがたかった。訪問診療で驚いたのは、35°C近い気温の中でもエアコンがない環境で暮らしており、家の中にいるだけで汗がだらだらと出てくる過酷な環境であった。熱中症にならないのか疑問だったが、昔から同じような環境で過ごしているため屋内での熱中症は少ないとおっしゃっていた。この訪問診療や工場での問診などをコンケン大学の学生も行っていたが、とてもスムーズにしており素晴らしいだった。

私が留学してよかったですと思ったのもコンケン大学の先生や生徒がとても優しく、丁寧に接してくれたおかげである。タイ語での説明を毎回英語に翻訳してくれて、ご飯に何回も連れて行ってくれたことで充実した1ヶ月を送ることができた。タイの方は日本のアニメや漫画をよく知っているので共通の話で盛り上がって楽しかった。もっと留学前にしておいた方がよかったですと思うことは、やはり英語の勉強をすることと、タイについてもっと知っておくとよかったです。英語に関しては、日常会話なら拙い英語でも意外と会話できたりするが、先生が解説してくれる医療系の話になると全然分からなかったこともあるので、留学前に医療用語はもっと覚えておけばよかったですと後悔した。また、日本の文化をタイの人が知っていると話が

盛り上がるよう、タイの文化を日本人がよく知っているとさらに話を広げられたと思うので、行く前からタイの文化やちょっとしたタイ語を覚えておくといいと思う。留学行く前は自分の英語力で留学なんて大丈夫かなと不安に思っていたが、行ってしまえばなんとかなることが多いし、コンケンの場合は一緒に行く学生も10人と多いので助けあうこともできると思う。海外の病院に行ける機会もなかなかないので、興味があればとりあえず行ってみることは経験として貴重になると思えた。

学術国際交流協定大学等への短期留学レポート

学 年 _____ 6 学年次 _____

氏 名 _____ 小西咲耶子 _____

1. 留学先 (☑を入れる)

- 南イリノイ大学医学部・PBL コース
 南イリノイ大学医学部・Elective コース
 コンケン大学医学部 ルール大学医学部
 ウツチ医科大学 バーモント大学医学部
 ポズナン医科大学 タマサート大学チュラポーン国際医学部
 HMEP プログラム・HCCPP コース
 HMEP プログラム・HMEPCC コース

2. 研修先 (複数の科などで行った場合は、全て記入すること)

一般外科（外傷外科） / 講座 _____

3. 留学期間 (出発・帰国日も含めた期間を記入すること)

2024 年 3 月 2 日 ~ 2024 年 3 月 31 日

4. 留学費用 (概算でもよいので項目別に記入すること)

・航空券代	129,930 万円
・宿泊費	6 万円
・光熱水費	5,000-1 万円
・予防接種代	10 万円
・海外旅行保険代	2-5 万円
・生活費(食事代、交通費等)	5 万円

5. レポート内容

今回の留学に関し記入欄に自由に記述すること。

注意1：必ず**留学して良かった点・改善点、留学への心構え・必要な英語力**についての記述を含む内容とすること。

注意2：文字の大きさ・文字数については、目安として、10.5又は11ポイントにより、

800字以上とすること。なお、用紙が不足する場合は複写して使用すること。

記入欄

留学してよかったです。実習に参加することで、医学英語力の向上、学生さんとのコミュニケーションを通じて日常英語力の向上ができたことです。また、タイの大学では、学生が実習でできることが多く、たくさんの手技をしていました。これに参加させてもらうことで多くの手技のスキルアップもできました。タイでの日常生活では、たくさんのタイ料理に挑戦し、文化を学ぶことができました。学生さんと一緒にご飯を食べに行ったり、買い物に行ったりして仲良くなることができました。

また、私はタイの外傷外科をローテートさせていただきました。タイでは日本よりも交通事故が多く、重症患者さんが多いので、日本ではあまり見ることのできないような、手術や治療を見ることができました。救急とは別で特別の外傷外科があり外傷の対応しているため、学生がファーストタッチをして、初期の対応を行っており、その指導を先生方がされていました。このような環境で、タイの学生さんと一緒に学ばせていただけることでとても充実した実習となりました。

シミュレーターも充実しており、たくさんのシミュレーターを通して手技を練習させていただきました。救急で必要なFASTや気胸の際の胸腔ドレーンの入れ方を実際にシミュレーターを通じて学ばせてもらいました。

先生方や学生さんたちがとても親切で困ったことがあれば何でも連絡してねとおっしゃってくれたおかげで最初は緊張していた実習もとても楽しいものになりました。

改善点としては、留学に行く前にもっと医学英語を習得していくべきだったということです。疑問点があつたりしても、なかなか英語で質問することを躊躇ってしまい、教授や先生方が何か質問はありますかと聞かれても、積極的になれなかつたことです。これは医学英語に自信がなく、質問する勇気が出なかつたこともあります。もう少し習得していけばよかったです。

留学の心構えと必要な英語力については、まず留学するにあたって、積極性を大切にしたらよいと考えました。先生方も最初の頃の私の拙い英語を一生懸命聞いてください全力で答えてくださいました。学生さんも日本のこと興味を持って~って日本語で何ていうのと質問してくれたり、日本の医学生の生活について質問してくれたりとコミュニケーションを取ってくれました。次に、タイという国に行くにあたり、日本とは違い、生活環境が違う部分があり、困ることもありました。これを

事前にしっかりと勉強していくことが大切であると感じました。英語力としては、日常会話では、屋台やお店に行きましたが英語はほとんど通じず、英語が必要と感じることはませんでした。病院の実習や学生さんと過ごす中では、英語が唯一の会話の方法であり、日常会話レベルの英語力(最低限リスニング力)は必要と感じました。また、授業や実習の際には先生方が英語で説明してくれたり、教授のタイ語の説明を英語で翻訳してくれたりします。よってここでは医学英語の単語がわからないと話についていけない場合もあり、自分の回る科でよく使われる単語については特に理解できるようにあらかじめ勉強していく必要があると考えました。

学術国際交流協定大学等への短期留学レポート

学年 6 学年次

氏名 新原佑美香

1. 留学先 (☑を入れる)

- 南イリノイ大学医学部・PBL コース
 南イリノイ大学医学部・Elective コース
 コンケン大学医学部 ルール大学医学部
 ウツチ医科大学 バーモント大学医学部
 ポズナン医科大学 タマサート大学チュラポーン国際医学部
 HMEP プログラム・HCCPP コース
 HMEP プログラム・HMEPCC コース

2. 研修先 (複数の科などで行った場合は、全て記入すること)

小児外

科/講座

3. 留学期間 (出発・帰国日も含めた期間を記入すること)

2024 年 3 月 2 日 ~ 2024 年 3 月 31 日

4. 留学費用 (概算でもよいので項目別に記入すること)

・航空券代	129,930 円
・宿泊費	59,980 円
・光熱水費	4,777 円
・予防接種代	70,000 円
・海外旅行保険代	11,860 円
・生活費(食事代、交通費等)	120,000 円

5. レポート内容

今回の留学に関し記入欄に自由に記述すること。

注意1：必ず**留学して良かった点・改善点、留学への心構え・必要な英語力**についての記述を含む内容とすること。

注意2：文字の大きさ・文字数については、目安として、10.5又は11ポイントにより、

800字以上とすること。なお、用紙が不足する場合は複写して使用すること。

記入欄

今回、私はコンケン大学医学部の小児外科に1ヶ月間留学させて頂きました。小児外科では、外来、回診、カンファレンス、手術見学をしました。コンケン大学の学生も1週間ずつ同学年の学生がローテーションしており、基本的に学生と一緒にスケジュールで回りました。外来では、小児外科の先生方の診察、検査、処置の見学の他に、学生のみでも患者を診察し、実際に病歴や症状をもとに診断を行ったり、回診の際には、カルテ記入や処置にも学生が参加していました。また、コンケン大学の学生は、週に2.3回程の当直も行なっており、夜間、患者の容態に変化があると、最初に学生が対応することでした。日本の病院実習でも、外来で患者の予診を取ったり、検査や処置に参加させて頂くこともありましたが、コンケン大学の学生実習は、より実践的で患者も学生に対して医療チームの一員として接していました。コンケン大学の先生方や学生は、私達日本の学生に対して、とても親切で、実習後にコンケン市内を案内してくれたり、おすすめの店に連れて行ってくれました。また、現地の学生は私たちよりも英語力がとても高く、医学知識も豊富であり、英語の医学書を使って勉強しています。そのため、先生や患者がタイ語で話すことをすぐに英語に翻訳してくれ、言語面でも沢山のサポートをしてくれました。

今回の留学を通じて、タイと日本の実習の違いを学ぶことができ、自分も試験対策の勉強以外にもその都度回る診療科について深く勉強しよう、というモチベーションに繋げることが出来ました。また、学生と一緒にいることで、実習中だけでなく、実習後も常に英語でコミュニケーションを取るので、英語のリスニング、スピーキングも1ヶ月を通じて上達させることができたと思います。それと同時に、もっと自分の意見を伝える努力をするべきだったと感じました。実習中は特に、あなたは今何を学びたいか、何に参加したいか、と聞かれることが多く、どうしても受け身となってしまっていたため、上手く意見を伝えることが出来ていなかったと思います。また、もっと医学英語の知識を増やしてから留学に行くべきだったと思いました。先生方や学生が疾患や患者について医学英語を用いて説明してくれたり、カンファレンスでは、日本の留学生のためにと英語でディスカッションしてくれましたが、知らない医学英語があると、そこで理解が止まってしまいます。そのため、その都度調べたり、文脈から病気を連想してようやく理解できる、といった状況が多く、苦労しました。必要な英語力についてですが、日常会話は、もちろん私たちが聞き取りやすいようにゆっくり会話をしてくれていたと思いますが、現地の先生方や

学生にとっても英語は第 2 言語なので、リスニングに関しては比較的理解しやすいと感じました。スピーチングは、自分の発音や単語が正しいか自信がなく、はじめはあまり話せていませんでした。ですが、間違っていても、話そうとする努力と伝えようとする姿勢がとても大事だと思いました。実際、間違っていても、言葉のニュアンスや前後の会話から理解してくれることが多いです。タイの学生は常に話しかけてくれることが多いですが、自分も勇気を出してたくさん話すことにより仲良くなれたり、友達も増えました。留学前の心構えとしては、英語力に自信が無くとも、自分から積極的にコミュニケーションを取ること、タイは日本よりも道路が整備されていなかったり、とても暑かったりと環境の変化に不安もあると思いますが、1ヶ月医学のことを学びながら、現地の文化も楽しむことを目標にするとよりよい留学生活が送れると思いました。

学術国際交流協定大学等への短期留学レポート

学年 6 学年次

氏名 高木優芽子

1. 留学先 (☑を入れる)

- 南イリノイ大学医学部・PBL コース
 南イリノイ大学医学部・Elective コース
 コンケン大学医学部 ルール大学医学部
 ウツチ医科大学 バーモント大学医学部
 ポズナン医科大学 タマサート大学チュラポーン国際医学部
 HMEP プログラム・HCCPP コース
 HMEP プログラム・HMEPCC コース

2. 研修先 (複数の科などで行った場合は、全て記入すること)

産婦人科

科/講座

3. 留学期間 (出発・帰国日も含めた期間を記入すること)

2024 年 3 月 2 日 ~ 2024 年 3 月 31 日

4. 留学費用 (概算でもよいので項目別に記入すること)

・航空券代	<u>129,930 円</u>
・宿泊費	<u>30,000 円</u>
・光熱水費	<u>3,000 円</u>
・予防接種代	<u>100,000 円</u>
・海外旅行保険代	<u>0 円</u>
・生活費(食事代、交通費等)	<u>100,000 円</u>

5. レポート内容

今回の留学に関し記入欄に自由に記述すること。

注意1：必ず**留学して良かった点・改善点、留学への心構え・必要な英語力**についての記述を含む内容とすること。

注意2：文字の大きさ・文字数については、目安として、10.5又は11ポイントにより、

800字以上とすること。なお、用紙が不足する場合は複写して使用すること。

記入欄

私は4週間、コンケン大学のシーナカリン病院の産婦人科で実習させていただきました。もともと留学に興味があり、低学年の時はコロナ禍で留学が難しかったので、学生の間に留学できる最後のチャンスだと思い応募しました。

渡航前は自分の英語力に不安がありました。タイの学生や先生方はとても優しく、私がわからない単語は簡単に言い換えてくれたので、会話するにあたって不自由はありませんでした。ただ医療単語はもう少し日本で勉強していくべきだったかなと思いました。

産婦人科では、外来見学(産科、婦人科、避妊外来)、ケースディスカッション、カンファレンス、分娩の見学、手術見学など曜日によってスケジュールが異なっていて、4週間飽きることなく実習をする事が出来ました。

また、日本では使っていない薬剤を使っていました。避妊法が行われていて、海外ならではの治療を見る事が出来てとても良かったです。日本の産婦人科では腹腔鏡手術が多いですが、タイでは開腹手術がほとんどだったので、見ていて分かりやすくとても勉強になりました。

実習中はタイの学生と一緒に行動して、常に通訳してくれたため、タイ語で何をやっているかわからないという時間は殆どなかったと思います。また、実習中だけでなく、お昼ご飯と一緒に食べたり、空き時間はケーキを食べに連れて行ってくれるなど、とても仲良くなることが出来ました。同時期にノルウェーからも留学生が産婦人科に来ていたため、タイの友達だけでなくノルウェーの友達も出来て嬉しかったです。タイの学生は月に10回もナイトシフトをしていました。オーダーを出すなど日本の研修医並の事を当たり前にしていました。日本で実習をしている時は基本見学だったので、とても驚き、私も頑張ろうというモチベーションにもなりました。

コンケンは行くまでどんな街なのか全く想像がつかず、不安もありましたが、実際はとても生活しやすかったです。レストラン、カフェは沢山あり、大きなショッピングモールも1つあるため、生活する上で不自由は全くありませんでした。ナイトマーケットでご飯を食べたり、スムージーを飲んだりしましたが、一度もお腹を壊さなかったので、衛生面も比較的良いのかなと思いました。

コンケンで過ごした1ヶ月は本当に楽しくてとても充実していました。留学するにあたってサポートしてくださった全ての方に感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

学術国際交流協定大学等への短期留学レポート

学年 6 学年次
氏名 中津翔貴

1. 留学先 (☑を入れる)

- 南イリノイ大学医学部・PBL コース
 南イリノイ大学医学部・Elective コース
 コンケン大学医学部 ルール大学医学部
 ウッチ医科大学 バーモント大学医学部
 ポズナン医科大学 タマサート大学チュラポーン国際医学部
 HMEP プログラム・HCCPP コース
 HMEP プログラム・HMEPCC コース

2. 研修先 (複数の科などで行った場合は、全て記入すること)

Community Medicine 科/講座

3. 留学期間 (出発・帰国日も含めた期間を記入すること)

2024 年 3 月 2 日 ~ 2024 年 3 月 31 日

4. 留学費用 (概算でもよいので項目別に記入すること)

・航空券代	129,930 万円
・宿泊費	6 万円
・光熱水費	5,000 円
・予防接種代	10 万円
・海外旅行保険代	3 万円
・生活費(食事代、交通費等)	4 万円

5. レポート内容

今回の留学に関し記入欄に自由に記述すること。

注意1：必ず**留学して良かった点・改善点、留学への心構え・必要な英語力**についての記述を含む内容とすること。

注意2：文字の大きさ・文字数については、目安として、10.5又は11ポイントにより、

800字以上とすること。なお、用紙が不足する場合は複写して使用すること。

記入欄

今回、私がコンケン大学の留学を希望した理由は、2つあります。1つ目は、日本以外の医療制度について知りたかったこと、2つ目は、私は将来緩和ケアに携わりたいと考えており、タイでは緩和ケアが発展していると聞いていたことです。私は『Community Medicine』を選択しました。理由としては、最も患者に身近で、地域の健康を支えているのは地域医療であり、医療そのものについて学ぶには最適ではないかと考えたためです。もちろん、医学的所見の取り方や考え方などは日本と変わりません。しかし、タイと日本の医療制度は大きく異なります。例えばタイでは患者個人に特定の公的病院が指定されており、その病院に行く場合は医療費の患者負担はありませんが、そのほかの、いわゆる私立病院に行く場合は全額負担となります。さらに、公的病院は患者数が多く、場合によっては診療に何カ月待ちということもあります。これらは医師の偏在と過労問題、および経済格差による健康格差を引き起こしています。同時に、疾患予防のための地域住民に対する健康教育、および訪問診療の重要性はより高く、取り組みが活発です。現在、日本では医療費の増大から健康保険について議論がされています。そういった中で、改めて日本の医療制度についての意見を持つために、実際に学生や現場で働く医師から考えを聞き、議論できることは留学のメリットであると考えます。さらに、留学の大きなメリットとしては英語を話すモチベーションが高くなることが挙げられます。日本では日常生活を送る上で英語を理解し話す必要はありません。これは素晴らしいですが、同時に英語を勉強する理由もないということに繋がります。何故なら、今のインターネットには無料で正確な翻訳サイトがあり、医学論文ですら日本語で読めてしまうためです。ですが、当然ながら留学すれば英語は必要不可欠な存在になります。集合場所を聞くとき、先生にライン電話をかけるとき、医学的な質問に答えるときなど、全て英語です。むしろ、基本的にはタイ語のなかで、唯一理解できる言語が英語である環境とも言えます。初めは何度も聞き返したことや、拙い英語を話すことに恥ずかしさを感じましたが、コンケン大学の学生と先生はとてもやさしく、次第に自分から英語を話したいと思えるようになりました。どういう言い方があるのかを学び、実際に使用し、それが通じた時の喜びは大きいです。特に印象的であった出来事は、私とタイの学生、カンボジアの学生で雑談が出来たことです。全員英語は母国語ではありません。ですが全員が何を言いたいのかを理解しあえました。この時生まれて初めて英語はテスト科目ではなく、世界の人と言いたいことを理解

しあう便利なツールだと強く実感しました。この喜びは一生の学びとして記憶されると思います。改善点としては大学のマップや電子版の地図があれば迷わないのではないかと思います。私は、もし留学に行くかどうかを迷っているなら、ぜひ挑戦してほしいと後輩に勧めます。

学術国際交流協定大学等への短期留学レポート

学 年

6 学年次

氏 名

船橋 舞衣

1. 留学先 (☑を入れる)

- 南イリノイ大学医学部・PBL コース
 南イリノイ大学医学部・Elective コース
 コンケン大学医学部 ルール大学医学部
 ウッチ医科大学 バーモント大学医学部
 ポズナン医科大学 タマサート大学チュラポーン国際医学部
 HMEP プログラム・HCCPP コース
 HMEP プログラム・HMEPCC コース

2. 研修先 (複数の科などで行った場合は、全て記入すること)

Plastic Surgery

科/講座

3. 留学期間 (出発・帰国日も含めた期間を記入すること)

2024 年 3 月 2 日 ~ 2024 年 3 月 31 日

4. 留学費用 (概算でもよいので項目別に記入すること)

・航空券代	129,930	円
・宿泊費	55,000	円
・光熱水費	4,000	円
・予防接種代	100,000	円
・海外旅行保険代	20,000	円
・生活費(食事代、交通費等)	100,000	円

5. レポート内容

今回の留学に関し記入欄に自由に記述すること。

注意1：必ず**留学して良かった点・改善点、留学への心構え・必要な英語力**についての記述を含む内容とすること。

注意2：文字の大きさ・文字数については、目安として、10.5又は11ポイントにより、

800字以上とすること。なお、用紙が不足する場合は複写して使用すること。

記入欄

私がタイのコンケン大学での実習を選んだ理由は、先輩からコンケン大学ではたくさん手技をやらせてもらえるというお話を聞いたからです。もともと留学に興味があり、手技をやらせてもらえるならと思い参加しました。東南アジアへの渡航は今回の留学が初めてで、参加前は生活環境や食事、衛生面などで不安が沢山ありました。しかし、1ヶ月の実習はとても充実していて、参加してよかったです。

留学してよかったです。日本とは違った症例に触れられる点です。コンケン大学の形成外科では美容手術もやっており、その手術を見学することが出来ました。また、コンケン大学では再建手術が多く行われており、いろいろな皮弁を使った再建手術を見ることが出来ました。その他にも、先生方がシミュレーションセンターへ連れて行ってくださり、以前実際の手術で使っていた顕微鏡でマイクロサージャリーの練習をさせていただきました。先生方はとても優しく、回診中や外来中でも患者さんとタイ語で話した後、毎回英語で私たちに対し説明してくださいました。また、コンケンにあるおすすめのカフェなども紹介してくださいました。改善点としては、もっと積極的に質問したり、術野に入りたいと伝えればよかったです。また、形成外科では基本的には先生方と行動し、学生とはスケジュールが違うことが多かったため、なかなか話す機会がなかったので、もっと積極的に話に行けばよかったです。

英語に関しては、1~4年次に習った単語などを復習し、オンライン英会話等を使って準備していましたが、形成外科に関しては低学年時の医学英語の復習をするより顔面や体表の解剖学用語、術式を英語ではどういうのかを学んでいったほうが良かったと思います。訛りが強く聞き取りづらいこともありましたが、写真を見て説明してくれたため、ある程度の単語力でも理解できました。

コンケンでの生活は想定していたよりも快適でした。ホテルのすぐ近くにコインランドリーやコンビニがあり便利でした。使った費用は休日の旅行やお土産代等すべて含めても10万円ほどでした。基本的に物価は安いですが、カフェやショッピングモール内のチェーン店は日本と同程度の価格でした。生活していく困ったのは、大学内のカフェテリアなど英語が通じない場所も多いこと、野犬が多いことくらいです。1ヶ月東南アジアで生活できるのかと不安でしたが、振り返ってみるととても充実した1か月でした。

学術国際交流協定大学等への短期留学レポート

学年 6 学年次

氏名 村松 優樹

1. 留学先 (☑を入れる)

- 南イリノイ大学医学部・PBL コース
 南イリノイ大学医学部・Elective コース
 コンケン大学医学部 ルール大学医学部
 ウッチ医科大学 バーモント大学医学部
 ポズナン医科大学 タマサート大学チュラポーン国際医学部
 HMEP プログラム・HCCPP コース
 HMEP プログラム・HMEPCC コース

2. 研修先 (複数の科などで行った場合は、全て記入すること)

Plastic & Reconstruction Unit Department of surgery 科/講座

3. 留学期間 (出発・帰国日も含めた期間を記入すること)

2024 年 3 月 2 日 ~ 2024 年 3 月 31 日

4. 留学費用 (概算でもよいので項目別に記入すること)

・航空券代	129,930 万円
・宿泊費	6 万円
・光熱水費	4,000-5,000 円
・予防接種代	10 万円
・海外旅行保険代	2 万円
・生活費(食事代、交通費等)	5 万円

5. レポート内容

今回の留学に関し記入欄に自由に記述すること。

注意1：必ず**留学して良かった点・改善点、留学への心構え・必要な英語力**についての記述を含む内容とすること。

注意2：文字の大きさ・文字数については、目安として、10.5又は11ポイントにより、

800字以上とすること。なお、用紙が不足する場合は複写して使用すること。

記入欄

・留学してよかったです

自分はコンケン大学医学部の形成外科にて実習を行ったが、コンケン大学の形成外科はタイ国内で一番多くの再建手術を行っており、またマイクロサージェリーを用いた手術も週に4回ほど行っていた。その中で、自大学の実習ではなかなか見られないような症例や手術などたくさん見学することができた。

タイの大学病院で実習を行って一番驚かされたことは、タイの形成外科では再建手術と美容外科手術の両方を行っていたということである。勿論、日本の大学病院では自由診療である美容外科手術は一般的には行ってはいないので、日本の医学部で美容外科手術を勉強する機会はほとんど無い。そのためコンケン大学の実習でたくさんの美容外科手術を見学し、勉強することができたのはとても貴重な体験となつた。

一方で、多くの再建手術の中でコンケン大学では口唇口蓋裂の手術をたくさん行っており、1日の手術で生後3ヶ月頃に行う口唇形成術と16歳から18歳頃に行う口唇鼻修正手術を別々の患者さんではあるが連続で見る機会が多くあり、長年かけて行っていく口唇口蓋裂の治療行程というものをよく理解することができた。

また、希望すれば術野に入らせてもらうことも可能で、より近くで手術を見て執刀医から直接解剖のことや術式のことを教えていただくことでどのような手術を行っているかをより深く勉強することができた。

教授やレジデントの先生方は病気や手術の説明、解剖のことなども丁寧に英語で説明してくれて、わからないことや疑問点などがないか確認してくれたりとても面倒見がよかったです。

また形成外科のプログラムの中でシミュレーターを用いた外科実習が組まれており、このプログラムもとても充実したものであった。日本の大学に置いてあるシミュレーターよりもリアルに作られており、種類も豊富であった。

今回の滞在中に自分はマイクロサージェリーを用いた実習を2回行った。マイクロサージェリーの機械は実際に手術で使っている機械と同じものなので本当の手術さながらの実習であった。1回目はレジデントに縫合の方法や機械の使い方など基礎的なことを教わりながら行った。

後日、レジデントの先生方にチキンの血管は人間の血管と似ているのでチキンワシングを買って縫合の練習を行っているということを伺ったので、2回目の実習では

自分たちでスーパーマーケットまでチキンウィングを買いに行き実際のチキンウィングの血管を用いて縫合練習を行った。チキンウィングの血管を用いて 10-0PPDS という微小な縫合糸を用いることで、とてもリアルな縫合を再現することができ、これもとても貴重な体験となった。

またコンケン大学の生徒達も気さくでフレンドリーな生徒が多く、積極的にコミュニケーションを取ってくれたり、困っていることがあったら助けてくれたりと、とても親切だった。実習後の放課後や休日などにはおすすめのカフェやレストランを紹介してくれて連れて行ってくれたりした。

- ・改善点

もう少し医学英語を学んでから実習に参加するべきであった。

- ・留学への心構え

コンケン大学で実習を行う前は先生や生徒と英語でコミュニケーションをうまく取ることができるか、外国の大学で上手く生活することができるかなど不安が多々あったが、実際に留学してみるとコンケン大学の先生方や生徒さんたちはとても親切で話しやすく教育熱心な先生が多かったので、全然心配することはないなと感じた。

- ・必要な英語力

今回の実習では英検 2 級レベルの英語力が必要とされていたが、確かに英検 2 級レベルの英語力と多少の医学英語の知識、コミュニケーション能力さえあれば勉強もよく理解することができたり、大学生活を十分楽しむことができた。

学術国際交流協定大学等への短期留学レポート

学 年

6 学年次

氏 名

乾 音媛

1. 留学先 (☑を入れる)

- 南イリノイ大学医学部・PBL コース
 南イリノイ大学医学部・Elective コース
 コンケン大学医学部 ルール大学医学部
 ウッチ医科大学 バーモント大学医学部
 ポズナン医科大学 タマサート大学チュラポーン国際医学部
 HMEP プログラム・HCCPP コース
 HMEP プログラム・HMEPCC コース

2. 研修先 (複数の科などで行った場合は、全て記入すること)

救急、一般外科

科/講座

3. 留学期間 (出発・帰国日も含めた期間を記入すること)

2024 年 3 月 2 日 ~ 2024 年 3 月 31 日

4. 留学費用 (概算でもよいので項目別に記入すること)

・航空券代	129,930 円 (土日旅行:35000 円)
・宿泊費	56,000 円
・光熱水費	5,200 円
・予防接種代	100,000 円
・海外旅行保険代	30,000 円
・生活費(食事代、交通費等)	120,000 円

5. レポート内容

今回の留学に関し記入欄に自由に記述すること。

注意1：必ず**留学して良かった点・改善点、留学への心構え・必要な英語力**についての記述を含む内容とすること。

注意2：文字の大きさ・文字数については、目安として、10.5又は11ポイントにより、800字以上とすること。なお、用紙が不足する場合は複写して使用すること。

記入欄

私はタイのコンケン大学で、救急科と一般外科（外傷外科）の Elective コースで各々2週間実習させていただきました。私のタイの一ヶ月の体験談は、問題がたくさんあったので、性格的に私のようにおっちょこちょいな人には参考になるかもしれません。留学前は不安がたくさんあるかと思いますが、実際にやってみたら思いのほか何とかなったので、とりあえず応募する一歩勇気をもつことをお勧めします。

・留学して良かった点

私の思う留学してよかったですは、日本とはまた違った医療を経験できること、異文化交流の楽しさを感じる、日本とは違う文化を一ヶ月も経験できるという留学ならではの面白い体験ができます。実習に関してはどの科も内容や時間は大まかに決まっているものの、自分次第でたくさん経験ができると思います。平日の実習終わりは毎日色んな食べ物や場所を開拓し、土日はプーケット、チェンマイ、バンコクに観光しに行きました。今まで交流のなかったような同学ともタイでは関係なく仲良く過ごせたので、仲いいメンバーがいない、話したことない人がいると思っていても、関係なく仲良くできるので心配いらないと思います。タイの友達だけでなく、同学とも距離が近くなれたこともこの留学を通して得られたことの一つです。大学生活では充実しており楽しかったです。

・改善点

私は本来救急科で4週間行う予定でしたが、タイの救急科はほとんど初期対応のみでありすぐに他科に紹介すること、何か手技などさせてもらえるか何ができるかを尋ねたところ、初日に観察のみと念を押されたのが、外傷などの3次救急や手技を学びたい私には厳しいものでした。本来学びたい内容は外傷外科という日本にはない一般外科のくくりにあたる科で行っていました。無理を言う形になってしましましたが、外傷外科にも実習させていただけこととなり、外傷の手術や手技を学ぶことができてよかったです。英語の力はあるに越したことはありませんが、選択した科にノリのいいフレンドリーな学生がいるかどうかが、その科を楽しく学べるかどうかに大きくかかわると感じました。お昼や夜もタイの学生とご飯に連れて行ってもらえる科もありましたが、救急科は先生方が忙しくそういうこともあまりな

かったです。選択する科と学生のタイミングによりけりですが、それでも積極的にあきらめない志を持つべきであったと後にも記載しますが、英語の準備不足であったことが自身の改善すべき点であったと考えます。

・生活に関して

コンケンでの生活は物価が安い、ホテルも大学からバスと徒歩で行ける、コンビニやお店が近くにあるといったようにのどかな田舎という感じで住みやすかったです。

今から記載するのは私が一か月のタイ生活で起こしてしまった問題です。普通は参考にならないのですが、同じくおっちょこちよいな人は参考としてみてもいいかと思います。

・Grab がクレカで使えない。タイでは Grab というタクシーを呼ぶアプリを使うので、事前のインストールをお勧めします。クレジットカードは VISA でないとできなかつたこと、私はマスターカードしか持ってきていなかつたので使えず、現金支払いという少し怖い支払い方法しかなかつたので気を付けてください。

・eSIM というもので事前に日本でインストールしておいて現地で SIM を切り替えて使うという手法のものを利用しました。私は切り替えがうまくできておらず、海外の高額なデータローミングを 1 週間ほど使用してしまい、あやうく超高額請求されてしまうところでした。通話料金はあきらめる覚悟で契約している携帯会社に連絡し、詳細を伝えることでなんとかなりましたが、気がつかずにそのままにしてしまうと大変なことになるところでした。

・犬に追いかけられました。本当にタイで死ぬと思った出来事でした。タイの特にコンケンでは普段から町中にたくさんの犬が寝転がっています。何もしなければ普通は何も問題なく過ごせるのですが、その日は夜遅く足元に犬がいるとは気が付かず大きな声で驚いてしまいました。普通はその場で静かに立ち去るのがベストだと思うのですが、犬と目を合わせたまま吠えている動画を撮っていました。すると犬が他に仲間を連れて同時に吠えながら追いかけてきたので、死ぬ氣で逃げました。狂犬病ワクチンを打っているとはいえ、タイでの医療行為は金額的にも大変なことになるかと思うので、犬に威嚇行為となってしまう行為は控え、直ちに見えなくなるところまで離れましょう。

・ナイトマーケットでお金が無くなりました。財布を持って友達と話していたらコインは残っていたのにお札がなくなっていました。財布と一目でわかるものを持っていたり、高額なお金をひとつにまとめる、手に持ち歩くなどのことは控えてください。せめて貴重品は小分けにしたり、人込みでは大事なものはカバンの中に隠したりして安心しすぎないでください。

・携帯をなくし、最終的に壊しました。携帯はタクシーの中に置き去りにしてしまいました。奇跡的にタクシー運転手の名刺をいただいていたので、タイ語の話せる現地の人にお願いして電話をしてもらい携帯が私の元に戻ってくることができました。最終的に携帯を落としすぎて壊れてしまったので、頑丈な紐を巻き付けて落ちないようにする、バックアップは取っておく、現地での購入は期待しない、iPad など別端末でも使えるようにしておくなど、事前の危機管理をおすすめします。

・英語に関して

まずタイ訛りが強く、聞き取るのが難しいこと、そもそも英語できませんという人

がいること、英語できる有無に関わらず基本的に医療英語はペラペラであること、豊富な医療英語知識を準備していないと実習として学べることが少ないと、いやでもリスニング力が身につくことは伝えておきたいです。

最終的に英語も伝わらないでしょと諦められて何も教えてもらえないなるのを避けるべく、最低限の医療単語は身につけておくことを強くお勧めします。また、google 翻訳と Voice Tra というアプリを駆使すればなんとかなるので、事前にインストールをおすすめします。

英語に自信がないからという理由であきらめないでください。自慢ではありませんが、とんでもなく英語できませんが、気合と明るさでなんとかなります。日々教わった英語をメモして毎日復習すれば 3、4 週目にはそれ覚えている、わかる！といったことも増えてきます。是非諦めずに貪欲に何事もトライしてください。

- ・最後に

初海外経験で、色々とトラブルメーカーでしたが本当になんとかなりました。それは、仲間や現地の方々の支えがあったからです。日本語が使えないでも、英語ができなくても、いつもとち違った世界に飛び込む大切さを痛感しました。先生方が留学を許可してくれたこと、タイの現地の方々が受け入れてくれたこと、この度の留学にかかわったすべての方々に感謝を申し上げます。本当にお世話になりました。ありがとうございました。